

Title	国際会計基準の導入とその日本企業への影響
Sub Title	
Author	誉田敦子 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第1033号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-1033">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-1033</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

菅田 敦子

主査 伏見多美雄

副査 小林 規威

柴田 典男

所属

伏見多美雄 研究室

## 国際会計基準の導入とその日本企業への影響

国際会計基準（以下、IASという）は、日本ではその認識はまだ十分ではないようだが、その目的を一言で表現するならば、国際資金市場における財務諸表の統一、すなわち各国の企業をいかにうまく比較できるようにするかということにある。したがって、日本企業も他国と同じものさしを使って財務諸表を開示し、それによって企業評価されることになる。

ところで、この会計基準の国際的調和化は、実は日本企業に最も大きな影響を及ぼすと言われている。その要因は、日本の会計基準との相違や日本企業独自の行動パターン、また日本の経済環境など様々な方面に考えられる。そこで、本論文はそれらを踏まえた上で、会計基準の変更による財務諸表の変化を考察し、その本質的問題を検討するものである。まず、第1章では、IASをめぐる国際の流れとそれによる日本企業への影響を把握する必要があることを示している。そして、第2章では、IASの背景や内容まで深く検討して、その日本基準との相違点の概略を述べている。そしてこうした問題意識のもと、第3章で棚卸資産の評価方法、第4章で工事進行基準、第5章でリース会計、第6章で外貨建金銭債権債務の換算方法、第7章で短期金融資産の時価評価を取り上げ、それぞれ各基準について、日本基準とIASとの差異とそれによる経済性の相違や財務諸表への影響を短期的・長期的な視点にたって調査、分析している。その結果、第8章ではIAS導入における日本企業の財務諸表への影響が、単なる計算制度の変更だけではなく、「利益の平準化」による剰余金の留保といったような日本経営の基盤を覆すまでに至る可能性があることを示している。そして最後に、日本の会計制度上のIAS導入の限界とその障壁を取り上げ、資本市場のグローバル化の進展において、今後の日本における国内基準とIASとの調和化の必要性を述べている。